



Representation Of Plants



# 植物の表象



登録有形文化財「藤岡家住宅」

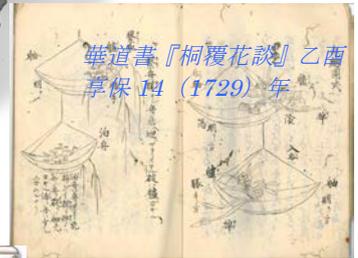
令和3年10月1日(金)～12月19日(日)



香木 沈香



『昼夜重宝記』安永7年  
1788年



華道書『桐覆花談』乙酉  
享保14(1729)年



料理本『素人包丁』  
享和3(1803)年

NPO 法人うちのの館 (やかた)

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地

☎ & FAX /0747 (22) 4013

月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館  
9時～16時 高校生以上 300円・小中学生 200円



[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) <http://www.uchinono-yakata.com>



松皮の香合

# 「植物の表象」 *Representation Of Plants*

令和3年10月1日(金)~12月19日(日)

登録有形文化財「藤岡家住宅」 管理人 NPO 法人うちの館  
〒637-0016 奈良県五條市近内町526番地 ☎と fax0747(22)4013

[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) <http://www.uchinono-yakata.com>

月曜休館。月曜が祝日のときは開館して翌日休館。9時~16時。

維持管理ご協力金高校生以上300円。小中学生200円。20名様以上2割引。



松皮の香合  
(蓋)

江戸時代「大坂屋」・「松寿軒」という薬種商であり薬商であった藤岡家には「医道」を語る書籍のほか、植物の薬効についての書や、食を語る書などがあります。植物からエッセンスをとった器具「らんびき」、香木、植物を材料にして造られた器、植物を象った置物、植物を描いた器、植物を語る書物、華道の書など人と植物との深く長い関わりを伝える資料を展示します。

『昼夜重宝記』安永七年(1778年)より香の調合法  
「萬香具(よろずこうぐ)の名方」

●懸香之方(かけこうのほう) 麝香(じゃこう) 大 藿香(かつこう) 中 丁香(ちようこう) 大 甘棠(かんしよう) 中 白檀(びやくだん) 大 石菖蒲(せきしょうぶ) 山橘  
葉(さんきつよう) 小 沈香(じんこう) ●仙人方 薰物(たきもの) 沈香三十分 丁子十分  
●貝香(かいこう) 五分 薰陸(くんろく) 五分 麝香 白檀 ●梅花香 薰物 沈香十分 甘棠  
●鬱金(うこん) 二分 白檀 二分 その他 ●野風(のかせ) 薰物 ●在明(ありあけ) 薰物  
●氏郷(うじさと) 薰物等についての記述あり

『女子理科植物学教科書』理学博士 三宅驥一著(大正十四年一月四日発行 明治書院)  
「植物の研究」

植物学 植物に関する総ての事柄を研究する学問を植物学といふ。植物学は人生に密接なる関係を有する学科にして、農学・工学・医学などの基礎をなす。

植物の研究 植物の研究は、精密なる観察と周到なる実験とによりてなされる。之に依りて、吾等は帝に植物につきて学ぶのみならず、観察力を緻密になし、趣味を高尚ならしめ研究心を養ふ等の利益あり。

「きく」「きく」は我が国の名花にして、品種甚だ多し、大別して大菊・中菊・小菊の三種となす。「ダーリア」「ひまはり」「ひやくにちさう」「コスモス」等は観賞用として栽培せらる。「ちしや」の葉、「しゅんぎく」の若き茎葉、「ふき」の葉柄及び「ごぼう」の根等は食用に供せられ、原野に自生する「よめな」「よもぎ」の、亦若き葉は積みて食せらる。べにばなの花弁よりは紅を製し「むしよけぎく」の花よりは駆虫財を製す。是等の植物をまとめて菊科といふ。

『薬用植物と民間療法』洪谷隆俊著  
(皇漢医方研究会本部 昭和二十五年八月一日 発行)

紅白紫紺色とりどりに美はしの花咲く野辺の雑草の中には一葉一花にして尊い人命を奪い去る毒草や亦其の一花にしてよく起死回生の靈草の有る事は諸賢周知の事実である。

明治維新欧米の文化が我が国に洪水の如く流れきて医学の如きも従来の漢方は陳腐なりと全く忘れ去られて仕舞ったかの感が有った。医学は益々進歩し今や其の頂点に達した。文化の向上と共に名も知れぬ様な病も発生して現代の医学をもつても治療困難な段階に成りつゝある。著者は四十数年間に渉り日本全国の漢方の先輩や古老達と親しく膝を交へて卓効ある薬草や民間療法を体得して世の多くの難症者に其の実を挙げて頂くべく浅学をも顧り見ずここに小冊子を表はす所以なり。

